

## 【問題の答えと解説】

### (1) およそ 150 ～ 200 個とされています。

在来種のタンポポでは 60 ～ 100 個とされていますから、セイヨウタンポポは在来種のおよそ 3 倍の数の花を咲かせるということになります。ちなみに、セイヨウタンポポは春から秋にかけてほぼ 1 年中花が咲き、受粉しなくても種子ができますし、できた種子は季節を問わずいつでも発芽します。一方、在来種は春にしか花が咲かず、受粉しないと種子ができません。また、夏にできた種子は秋にならないと発芽しないのです。セイヨウタンポポがいかに有利かということの思い知らされる数字ですね。この強い繁殖力こそが、外来種の怖さでもあります。

### (2) 昼は花が開き、夜は花が閉じる。

ここに挙げた花は、昼と夜の明るさや気温の変化などが原因で開閉を繰り返します。例えば、チューリップは主に昼夜の温度変化によって花が開閉するので、花が大きく開いてしまったチューリップは、花びらや葉からの水の蒸発を防ぐためにそっとラップなどに包んで 2 時間ほど冷蔵庫に入れておくと、花がきれいに閉じてくれます。ただし、冷蔵庫の中は湿度が低いので長時間置くとしおれることがあります。

なお、カタバミは、夜になると花だけでなく葉も閉じてしまいます。

### (3) 午前中

イネは夏の午前中に花が咲きます。花といってもイネの花に花びらはないので、えい(もみがら)が開くだけです。なお、イネの花が開いている時間はわずか 1 ～ 2 時間ほどです。また、花が咲く時期に雨が多いと花粉が飛ばないので、不作の原因となります。